

学力研×菊池道場・第3回グランドクロスセミナーの報告

石川 満

十月八日、名古屋国際センターで行われた「グランドクロスセミナー」の感想をお伝えします。会場は満員で、菊池道場、学力研への関心の高まりを感じました。

1 授業づくりと学力づくり(久保先生)

久保先生は、立ちブリッジを全員が行う映像を見せ、「全員ができる」ことこそ、パワーになるということを力説しました。また、その立ちブリッジも、子どもにさせるのとどまらず「一年生に立ちブリッジのやり方を教える」という形で習熟を求めています。六年生の立ちブリッジを一年生が馬跳びして行く姿に、会場からも感嘆の声が挙がりました。

次に、久保先生は音読にもふれました。

「授業はどの教科も音読で始める。話し言葉、聞き言葉から、音読を通して、読み言葉、書き言葉に変わる。それが、子どもを学習モードに変えていく」ということです。

そのような子ども伸ばす思想が、計算漢字指導、宿題、ノート指導すべてにいきわたっていると感じました。最後に「労働こそ愛」という話題で締めくくり、私も子どもに「愛すること」を教えることを実践の中心軸にしないでほしいと思いました。

2 自立(個の確立)につながる教室づくり(菊池省二先生)

菊池先生も映像を見せながらお話をされました。「一人が美しい」「やる気の姿勢」など、教師や子どもが作り出した「価値語」の数々が紹介されました。「価値語」自体に学ぶべきものが多いのですが、どのようにそれが作られ、全体に浸透していったのか、その手立てを知りたく思いました。

また、菊池先生は、学び方、つながり、逆転現象、オープンエンドなど十もの項目を設定して授業を組み立てているそうです。自分の授業づくりの参考になりそうです。

3 実践報告「教室の事実から学びを深めよう」(古橋祐一先生・岡本美穂先生)

古橋先生は、自立した子どもを育てるために、安心感、自信、認め合いという視点から取り組んでいる、様々な実践を紹介しました。その中には学力研の内容もあり、菊池道場にとどまらず広く多くのことを学ぶ姿勢に感心しました。

また、岡本先生は、子どものことば・ここを大きく育てる実践を紹介しました。

岡本先生と言えばノート指導ですが、音読や詩の指導も進めていることに感服しました。目の前の子からスタートし、成功体験を積ませて伸ばしていくことが心に残りました。

4 全体を振り返って

久保先生、菊池先生のお話、岡先生と菊池先生の対談には「人格の完成を目指す」という言葉が出てきました。また、菊池先生から、「各授業にも人格の形成を目指す部分がなくてはならない」という話がありました。自分の取り組みが子どもの人格形成にどうつながっているか、絶えず問い続けなければという思いになりました。